

総合情報館

インターネット上に公開されたトリビア蔵をパネル展示。
宇出津港を望みながら能登町の歴史・文化に触れる。



民有「歴史文化」資産の
保存活用を考える会
久保田勝夫 会長



奥能登トリビア蔵

総合情報館

【場所】宇出津（能都庁舎 6 階）
【開館日】5 月 21 日までの平日
3・4・5 日の祝日は開館
【開館時間】10:00 ～ 16:00



期間中、さまざまな特別展も開催されている。写真
は「白洲大尉顕彰碑」建立 1 周年記念展。



4 月 5 日のオープニングセレモニーには、関係者
やマスコミなどたくさんの人が訪れた。

町は大きな博物館

平成 22 年 4 月、「プチミュージアムの郷プロジェクト」の趣旨に賛同した 4 つのトリビア蔵が開館した。5 日には、これまで調査を進め、インターネット上で公開している 53 館をパネル展示する「総合情報館」が能都庁舎 6 階に期間限定でオープン。5 月にも 1 館の開館を予定し、10 館となる。

「海を眺めるだけで癒される最高のロケーション。この場所が県内外に能登を発信する拠点になる」。4 月から考える会の会長を務める久保田勝夫さん（65）は、里川尻 II は、眼下に広がる宇出津港を眺めながら力強く話す。

食品メーカーの営業マンとして全国を飛び回り、定年退職を機に古里に Uターンした久保田さん。「自分の経験を古里に還元したい」と町総合計画審議会の公募委員や考える会での活動など積極的にま

ちづくりに取り組んでいる。
「どんな取り組みでも地元の方々に関心を持ってもらわなければ成功しない。景色を眺める気持ちで気軽に来てもらって、少しでも能登町の歴史・文化に触れてほしい」と呼び掛けている。

奥能登 トリビア蔵

地域に眠る歴史文化資産を民家や店舗の一角に展示する「プチ・ミュージアムの郷プロジェクト」。平成 18 年に発足した民有「歴史文化」資産の保存活用を考える会がこの事業を展開している。

目標は 50 館。一つ一つは小さな博物館でも「奥能登トリビア蔵」としてパッケージすることで地域の活性化を目指す。4 月には 5 館が開館し、5 月開館予定の 1 館を含め計 10 館となる。今回、新たに開館したトリビア蔵取材した。

※トリビア：雑学的な事柄や知識、豆知識



ごいた情報館



恋路伝説館



総合情報館



サイバー館



内平美術館



久田和紙館

ごいた情報館

「ごいた」を知る。「ごいた」に触れる。
宇出津発祥の伝統娯楽を発信する窓口。



能登ごいた保存会
洲崎一男 会長



奥能登トリビア蔵

ごいた情報館

【場所】宇出津（電化ショップすざき内）

【開館】9:00～19:30（月～土）

10:00～19:00（日）

【連絡先】☎ 62-0658



保存会が発行する「ごいた入門」には、歴史やルールのほか、勝ための戦略なども紹介されている。



手軽にごいたができる「ごいたカード」も販売されている。説明書付きで始めやすい。

ごいた人口増への第一歩

宇出津地区で古くから親しまれている伝統娯楽『ごいた』は、将棋に似た駒32枚を使い、4人が『しりとり』のように駒を出していく。ルールは簡単ながらも、勝つための駆け引きや読み合いは奥深い。

平成20年1月には町指定文化財に指定され、国内外のゲームショーに出品されるなどそのゲーム性は高く評価されている。

ごいたの保存・普及活動をしている『能登ごいた保存会』は、年6回の大会開催やごいた番付の作成など毎年精力的な活動を行っている。会長の洲崎一男さん（65）は今回、自身が経営する電器店の一角を『ごいた』の展示スペースとしてトリビア蔵を開館した。『保存会』の目的の一つは、ごいたを通じて、全国に発信していきたいと話す。時間が合えば実演や手ほどきも受けられる。

「わたしの夢は『ごいた道場』を設立し、能登町で生まれたゲームを全国的なゲームにすること。今回の展示をきっかけに、さらに前向きにチャレンジしていきたい」と意気込んでいる。

久田和紙館

地域の伝統を継承する「紙工房みわ会」。
試行錯誤を重ねて和紙の可能性を追求する。



久田和紙
紙工房みわ会
しゅどう
鉄藤正雄 会長



奥能登トリビア蔵

久田和紙館

【場所】小間生（小間生公民館内）

【開館日・時間】火曜日～土曜日

9:00～16:00

【連絡先】☎ 76-0275



和紙の製造とともに造花、人形、切り絵、ハガキ、しおりなどの作品づくりも行っている。



柳田中学校3年生に紙すきを指導するみわ会の皆さん。世界に一つだけの卒業証書が出来上がる。

古里の伝統を伝えたい

約350年前の文献にも見られる『久田和紙』。コウソのみを使った丈夫で染みのない和紙として古くから久田地区で生産されていたが、大正初期に廃れたという。

昭和63年に小間生小学校の体験学習として復活。その技術は、小学校閉校を受けて地域の人たちに受け継がれた。有志により結成された『紙工房みわ会』は、久田和紙の技術を残していくために和紙づくりを重ねている。

柳田中学校では5年前から久田和紙を使った卒業証書づくりを体験している。生徒たちは和紙づくりを通してさまざまなことを学ぶ。『古里の伝統を知ってもらうためにも、能登町の中学校全部の卒業証書に久田和紙を使ってほしい』と鉄藤正雄会長（74）は話す。

昨年、エンデバーファンド21の助成を受けて、乾燥機と吸引器を整備。生産効率が飛躍的に上がり、会員の創作意欲は高まっている。『課題はいかに情報を発信し、久田和紙に関心を持ってもらうか。今後とも丈夫で色あせない和紙の特徴を生かした作品を開発したい』と鉄藤さんは考えている。

恋路 伝説館

昭和42年に書かれた「恋路の伝説」が、
人物の心理や情景まで細かく描写する。



観光ボランティアガイド
民宿もとひら主人
元平達雄さん



奥能登トリビア蔵
恋路伝説館
【場所】恋路（民宿もとひら内）
【開館日・時間】来館を希望する場合は、事前に
電話連絡をしてください。
【連絡先】☎ 72-0251



昭和42年に書かれ、翌年元平さんが手書きで写した「恋路の伝説」は全26ページで読み応えあり。



恋路出身の坂坦道氏が昭和46年に制作した「恋路物語」。恋路海岸で助三郎と鍋乃が寄り添う。

「誰しも恋の経験がある。いつの時代も恋路伝説は大切な物語」と元平さんは考えている。
観光地・恋路にとって、『恋路伝説』は大きな観光資源の一つ。伝説の内容やゆかりの地をしっかりと発信することが重要だ。

「誰しも恋の経験がある。いつの時代も恋路伝説は大切な物語」と元平さんは考えている。
観光地・恋路にとって、『恋路伝説』は大きな観光資源の一つ。伝説の内容やゆかりの地をしっかりと発信することが重要だ。

「誰しも恋の経験がある。いつの時代も恋路伝説は大切な物語」と元平さんは考えている。
観光地・恋路にとって、『恋路伝説』は大きな観光資源の一つ。伝説の内容やゆかりの地をしっかりと発信することが重要だ。

「誰しも恋の経験がある。いつの時代も恋路伝説は大切な物語」と元平さんは考えている。
観光地・恋路にとって、『恋路伝説』は大きな観光資源の一つ。伝説の内容やゆかりの地をしっかりと発信することが重要だ。

誰もが歩む「恋の路」

70年以上前の助三郎と鍋乃の悲恋物語は、恋路の人たちによって大切に語り継がれてきた。物語はやがて伝説となる。縁結びの場所として、『小平次の浜』はいつしか『恋路』と呼ばれるようになった。

昭和42年、『恋路の伝説』が執筆された。人物のセリフや心理、情景までも細かく描写された物語。元平達雄さん（69）は、『恋路の伝説』を手書きで写し、町史から引用して制作した『内浦町の方言』と共に客室に備えた。

「能登ブームのころは、忙しいで伝説を説明する暇もなかった」と当時を振り返る元平さん。「過疎化が進み、観光客も減った。パネルにして展示することで恋路伝説を残していく一つの手段にしたい」という思いでトリビア蔵への参加を決めた。

「誰しも恋の経験がある。いつの時代も恋路伝説は大切な物語」と元平さんは考えている。
観光地・恋路にとって、『恋路伝説』は大きな観光資源の一つ。伝説の内容やゆかりの地をしっかりと発信することが重要だ。

内平 美術館

個性的な作品を毎年発表し、注目を集める
笹川出身の彫刻家・内平俊浩さんの美術館。



内平美術館館長
内平俊男さん



奥能登トリビア蔵
内平美術館
【場所】笹川
【開館日・時間】来館を希望する場合は、事前に
電話連絡をしてください。
【連絡先】☎ 76-0052



「シンクロナイズ」（88年）やフィギュアスケート選手など初期のころの作品も展示されている。



作品名「テルミドール」。寄せ木で制作され、88年のハンズ大賞展審査員特別賞を受賞した。

内平俊浩（うちひら・としひろ）

1960年能登町笹川生まれ。名古屋芸術大学美術学部彫刻科を卒業し、KOBATAKE工房の小島廣志氏に師事。87年から銀座のギャラリーで毎年個展を開催する。88年ハンズ大賞展審査員特別賞。ほかに中日展、現代美術展など入選多数。埼玉県入間市在住。
93年 笹川に内平美術館設立
98年 石川県作家選抜美術展
99年 WOMAN100体展（黒部市）
06年 石川の木彫（県立美術館）
09年 内平俊浩木彫展（横浜人形の家・横浜開港150周年記念展示）など個展、グループ展多数。



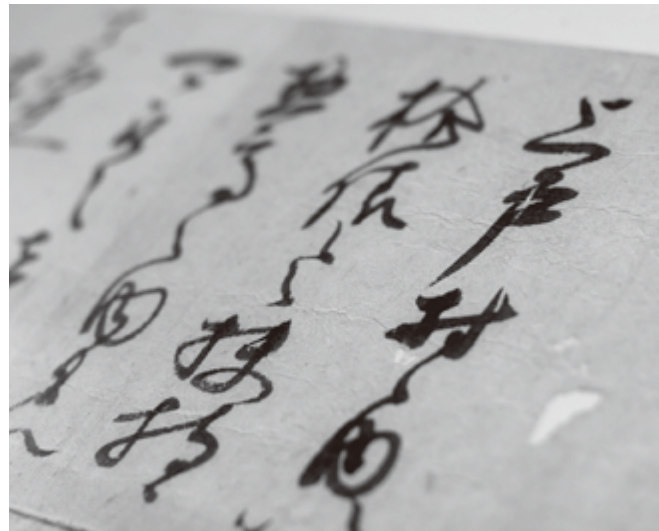
現代女性を木で表現する
平成5年、笹川地内に個人美術館が設立された。笹川出身の彫刻家・内平俊浩さん（50）は埼玉県在住の作品を展示する『内平美術館』だ。現代に生きる女性を木彫で表現する内平作品約200点を展示。初期の寄木彫から近年の粗削りで仕上げる木彫まで、作風の変化も垣間見ることが出来る。ほかに、親交があった作家たちのいろいろな素材の作品を同時に展示している。作品を管理する父親の内平俊男さん（76）は「一人でもたくさんの人に作品を見てもらいたい」と話している。

既存 4館

平成 18、19 年に整備された既存の 4 館も
開館中。縄文焼館の開館も迫る。



あまめはぎ館 あまめはぎに使われる用具や写真
【場所】秋吉（あまめはぎ公園近く）【開館】電話確認（☎ 72-8080）



時間旅さねより館 珠洲市上戸の豪農、真頼家の古文書
【場所】松波（旧松波駅近く）【開館】電話確認（☎ 72-0085）



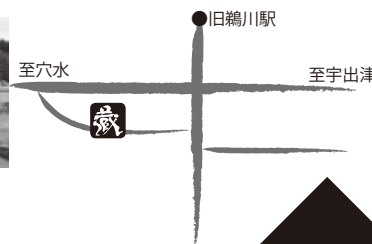
松波城址情報館 畠山氏のルーツや松波城の歴史
【場所】松波（旧松波駅）【開館】不定休（9:30～11:30、14:30～16:30）



野鍛冶館ふくべ鍛冶 昔ながらの鍛冶道具やマキリなど
【場所】宇出津（新町通り）【開館】7:30～19:30（☎ 62-0785）



奥能登トリビア蔵
縄文焼館
【館長】山中梅峰さん
【場所】鶴川
【開館】5 月中に開館予定



縄文 焼館

サイバー 館

「能登は歴史文化の隠れ里」というイメージを
ホームページで全国に発信するサイバー館。



<http://gozai.sakura.ne.jp/>

サイバー館で公開される奥能登トリビア蔵

【文化：13 館】

鯨捕り、芸術家坂家、松波じろ鉛、のときリシマ、五十里歌舞伎、能登杜氏、いしり、合鹿椀、炭焼き、石場がち、古民家（宮本家・川端家、吉村家）

【人物教育：13 館】

阿武松、久田船長、馬場宏方言集、白淵大尉、宝暦一揆、十郎兵衛、瑞穂小中学校、三波・神野・白丸・中斉・小間生の各小学校、独立青年学校

【古文書：18 館】

海前寺、白山神社、三宅家、室谷家、久田家、二谷家、高宮家、山田家、中野家、表家、山下家、田中家、上出家、中谷家、隅家、出村家、信念寺、松波百姓一揆館

【リアル館：9 館】

天野登伝統行事館、伝統野鍛冶館、さいた館、恋路伝説館、内平美術館、久田和紙館、縄文焼館、時間旅さねより館、松波城址情報館



小木中学校でサイバー館の説明をする中さん

53 館をホームページで公開

プチミュージアムの郷プロジェクトは、平成 20、21 年度と国土交通省の「新たな公」によるコミュニティ創生支援事業に採択された。20 年度は、調査を進めて 53 館をリストアップ。21 年度にはインターネット上にサイバー館として 53 館を公開し、6 館がリアル館として整備された。

サイバー館は主に「文化」、「人物教育」、「古文書」の 3 つのカテゴリに分類されている。

考える会事務局の中興七郎さん（63）＝松波＝は「関係する皆さんのおかげで無事公開できた。本当に感謝している」と話す。公開後は地域の皆さんに知ってもらおうと町内の中学校 3 校と 5 地区の公民館など出張講座も行った。

「中学校では地元史を教えられていない。藩政時代の一揆の様子や年貢の高さなどを聞いた生徒はとても驚いていた」と振り返る。目標は 50 館の整備と話す中さん。「50 館がパッケージされれば、究極のオンラインワンになり、能登を歴史文化の里としてブランド化できる。ここからがスタート」と決意を新たにしている。